

表1 播種期および開花期追肥が金時の生育・収量・品質等に与える影響（大正金時）

播種期 追肥	播種日 (月日)	成熟期 (日)	倒伏程度 0(無)~ 4(甚)	葉落良否 1(良)~ 5(不良)	莢数 (莢/株)	百粒重 (g)	子実重 (kg/10a)	色流れ粒率 (%)
標準	5/27	9/4	1.2	3.0	16.7	69.0	237	17.3
遅まき	6/9	9/15	1.9	2.8	16.7	74.6	239	17.1
極遅まき	6/23	9/26	2.4	2.9	15.9	78.8	265	11.1
追肥なし	6/9	9/14	2.2	2.8	16.6	70.3	222	12.5
追肥あり	6/9	9/15	2.7	3.4	18.4	74.0	268	14.7

注) 播種期: 2014~2018年十勝農試場内および現地6ヶ所、各年9~16事例の平均。

追肥: 2016~2018年十勝農試場内および現地5ヶ所、のべ41事例の平均。

表2 成熟期分散のための播種期設定の例

目標 成熟期 品種	9/15 (秋播小麦前作)		9/27~9/30 (降雨リスク最少)	
	大正金時	福勝	大正金時	福勝
芽室町	6/17	6/11	6/28~6/30	6/23~6/26
更別村	6/10	6/5	6/23~6/26	6/18~6/21
本別町	6/18	6/12	6/29~7/1	6/24~6/27
上士幌町	6/9	6/4	6/22~6/24	6/17~6/19
池田町	6/13	6/7	6/25~6/28	6/20~6/23
浦幌町	6/11	6/6	6/25~6/27	6/20~6/22
大樹町	6/6	5/31	6/20~6/23	6/15~6/18

表3 9月下旬成熟（極遅まき）のメリットとデメリット

	メリット	デメリット
品質面	・30mm以上の降水リスクが最も低く(最近10年)、色流れの低減が期待できる。	・初期生育が旺盛であるため、施肥管理によっては倒伏が増える可能性がある。
作業面	・他畑作物の播種・定植と時期が重ならない。 ・他畑作物(他播種期の金時)で発芽・活着トラブル・霜害等があったときに播き直しが可能。	・収穫が秋まき小麦の播種に間に合わない。 ・播種が遅すぎると、成熟期末達や霜害などのリスクがある。 ・収穫が他作物(てんさい、ばれいしょ)と競合する場合がある。
経済面	・百粒重が増大し、気象条件が良い年には増収も見込める。 ・色流れ粒が減少し、上位等級割合の増加が期待できる。	・豊作年には価格が下落する可能性がある。

3. 留意点

- (1) 本成績は、金時の色流れ粒の発生回避等のために、生産者が播種期、栽培品種、窒素追肥の有無等を決めていただく際の参考にしてください。

(成績名：気象変動に伴う金時の色流れ粒発生リスク回避に向けた播種期設定および成熟期分散)

もう少し詳しい情報はこちら
(スマホでの閲覧はお勧めしません)



検索は、「農業技術情報広場、一般課題 H31」で

本技術内容についての問い合わせ先
道総研十勝農業試験場
電話 (0155) 62-2431
E-mail: tokachi-agri@hro.or.jp